

交流自治体間の連携強化を確認

自治体スクラム支援会議と 地方創生・交流自治体連携フォーラムを開催

20・21日、福島県北塩原村で、杉並区及び区と災害時相互援助協定を締結している交流自治体の首長が集まり、自治体間スクラム支援会議を開催し、災害発生時の連携をより強化するため参加自治体間の災害時相互援助協定を締結しました。

また、自治体間の連携による関係人口の創出・拡大をテーマに地方創生・交流自治体連携フォーラムを開催しました（参加自治体：杉並区、名寄市、南相馬市、北塩原村、東吾妻町、小千谷市、青梅市、忍野村、南伊豆町）。

■第12回自治体スクラム支援会議

東日本大震災直後に、杉並区と災害時相互援助協定を締結していた群馬県東吾妻町、新潟県小千谷市、北海道名寄市が、杉並区と災害時相互援助協定を締結していた福島県南相馬市に対して区と連携して支援を行いました。当時、南相馬市と3自治体の間には直接の交流はありませんでしたが、杉並区の呼びかけに即時に応じていただき、このことが現場のニーズに即した迅速な支援につながりました。このような取り組みがきっかけとなり、平成23年4月8日に自治体スクラム支援会議が発足しました。その後、この取り組みに賛同する東京都青梅市、福島県北塩原村、山梨県忍野村と静岡県南伊豆町が加わり、現在に至っています。

今回のスクラム支援会議では、災害時の支援・受援に関する説明に続き、南相馬市から、南相馬市の現況と復興に向けた取り組みが報告されました。東日本大震災から11年が経過し、自治体スクラム支援会議に参加する自治体の災害対応力を高めるとともに、災害が発生した際の相互援助の協力体制を強化するため、9自治体間で「自治体スクラム支援会議における災害時相互援助協定」を締結し、より強固な連携が確認されました。協定締結にあたって杉並区長は、「次どのような災害が起こるかわかりませんが、その時に力をあわせて相互に助け合うという契機になればと思っています。」と述べました。

■第7回地方創生・交流自治体連携フォーラム

このフォーラムは、杉並区と国内の8つの交流自治体が一堂に会して、課題の共有とその解決に向けた連携事業の具体化に向けた討議を行い、都市と地方の共存共栄を目指すことを目的としています。

コロナ禍において、これまでどおりの取り組みができない中、アフターコロナを見据え、自治体間連携による関係人口の創出・拡大をテーマに話し合いが行われました。

(※裏面あり)

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局からの基調講演に続き、今回のフォーラムのホストである北塩原村と裏磐梯観光活性化協議会の皆川大樹(みなかわ だいき)氏から、関係人口の創出と、新たな価値創造に向けたワーケーションの推進に関する報告がありました。

続いて、東京大学名誉教授の大森彌(おおもり わたる)氏を進行役に、9自治体の首長らによる議論が行われ、それぞれの交流自治体の持つ強みを生かしつつ、さらなる自治体間交流の促進に、継続的に取り組んでいくことが確認されました。



【問い合わせ先】

危機管理室危機管理対策課：03-3312-2111（内線）1581

区民生活部地域活性化推進担当：03-3312-2111（内線）3792

総務部広報課：03-3312-2111（代表）